

22. 褥瘡発生率

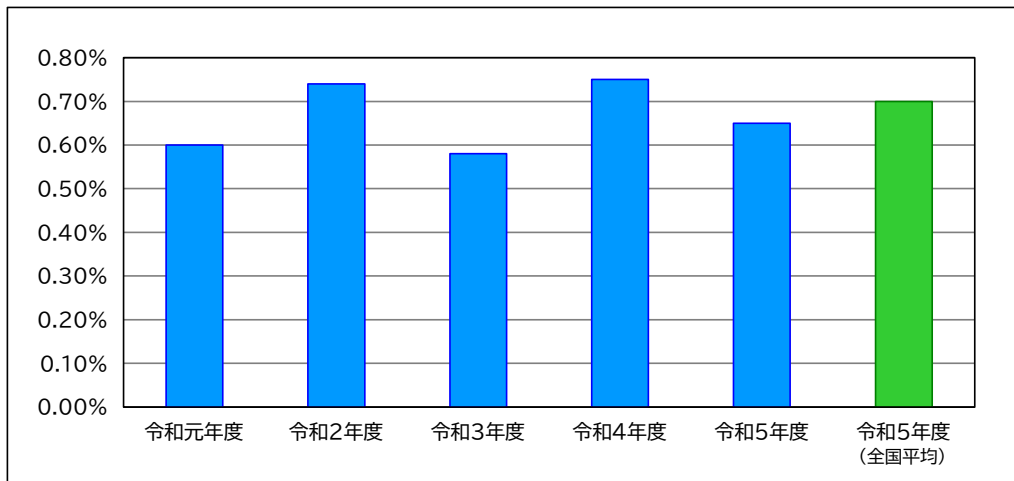
項目の解説

入院中に発生した褥瘡(床ずれ)は、患者のQOLを低下させ、入院の長期化につながることもあります。予防可能な褥瘡については、適切な診療やケアにより、発生を回避することができます。当該指標は予防への取り組みとその効果を示す指標です。

当院では、褥瘡予防ケア向上のために看護師のクリニカルラダー別教育や、褥瘡ケア院内認定看護師の育成、体圧分散マットレスの十分な配置の取り組みを行っています。近年褥瘡発生率が上昇しているのは、クリティカルケア領域において循環動態が不安定な重症者、長時間の高度手術を要する患者、難治疾患を有する高齢者での発生が増加していること、そして様々な医療機器によるMDRPU報告数が増加していることが原因と考えられます。今後も的確な褥瘡予防対策を提供できるよう努めてまいります。

当院の実績

九州大学病院					全国平均
令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
0.60%	0.74%	0.58%	0.75%	0.65%	0.70%



* 「全国平均」は、国立大学病院の平均值(四捨五入)を示します。

定義

各年度1年間での、褥瘡発生率(入院してから新しく褥瘡を作った患者比率(%))です。自重による褥瘡以外、MDRPU(医療関連機器圧迫創傷)も含めます。



九州大学病院

KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL